

中国青海省チベット族の村社会

— 双朋西村と曲馬爾村の村社会の事例から —

ガザンジェ

人間社会環境研究科 博士前期課程 2年

1. はじめに

内陸アジアのチベット高原では、原住民であるチベット系の民族が広く住んでいる。彼らの長い歴史の中で、チベット仏教を中心としたチベット文化が広大な地域に伝播していった。現在もチベット文化の影響下にある地域は、中国、モンゴル国、ブリヤート共和国、トゥヴァ共和国、ネパール王国、ブータン王国、インド共和国にまたがる地域に広がっている。

中国のチベット族の人口は、541万人である（2000年の人口調査より）。現在、チベット人は中国のチベット自治区、青海省、甘肅省、四川省、雲南省に広く分布している。チベット人は、この地域をチベット語の方言によって、①ウツァン（Dbus gtsng）、②カムム（Khms）、③アムド（A mdo）、の三つに分けている。



図1 中国国内でチベットが分布する地域
(中国チベット地域地図ホームページより)

中国のチベット地域は昔から、チベット世界の文化、宗教、経済、政治などの中心である。しかし、近年、色々な面で外国の人類学者がチベット高原へ調査に行くことが困難になった。それ故、現在まで中国のチベット族の村社会、家族構成、生業などを研究した人がとても少ない。今回、筆者が中国青海省のチベット地域でチベット人の村社会、家族構成、生業などについて調

査を行った。

2. 調査日程と訪問先

(1) 調査日程

筆者は2011年1月22日～4月4日にかけて、中国青海省黄南チベット自治州同仁県双朋西郷双朋西村と曲馬爾村で調査を行った。

図2で青海省の地図をあげるが、この青海省のほとんどのチベット人が、チベットのアムド方言を話しているので、チベット人の観点によれば、この青海省はアムドに属し、チベットの伝統的な農業と牧業を生業としているところである。青海省のチベット族の人口は106.4万人である（2004年の人口調査より）。これは、全省人口の20.9%を占める。主として玉樹、果洛、黄南、海南、海北のチベット自治州及び海西モンゴル族チベット族自治州に広く分布し、西寧市や同市所轄の大通県、海東地区などにも居住する。青海省にはチベット族以外にも漢民族、回族、土族、モンゴル族、サラ族などの民族が多く住んでいる。



図2 青海省の地図（中華地図ホームページより）

(2) 同仁県と双朋西郷及び調査村の概要

同仁県は青海省の東南を占める黄南チベット自治州の東南部に位置し、東は甘肅省のチベット地域夏河県と接する。地理的位置は、東経 101.38 度から 102.27 度まで、北緯 35.1 度から 35.47 度までである。農業を主として、牧畜業も行う地域である。隆務鎮には黄南チベット自治州と同仁県の政府があり、州と県の政治、経済及び文化の中心である。全県の面積は 3275 平方キロメートルである。そのうち、耕地の面積は 7566.7 ヘクタール、草原の面積は 30 万ヘクタール、森林の面積は 1.28 万ヘクタールである。同仁県の最高海拔は 4757 メートルであり、最低の海拔は 2160 メートルである。年間平均気温は 5.2 度で、年間平均降水量は 425.7 ミリメートルである。この地域は冷暖な乾燥気候である。

全県の行政区画は 2 鎮、10 郷、72 行政村、4 コミュニティに分けられる。そのうち、農業を行っているのは 4 郷であり、牧業だけを行っているのは 3 郷である。

双朋西郷は同仁県の東南部にあり、県政府がある隆務鎮とは 33 キロ離れている。双朋西郷の最高海拔は 3945 メートル、最低海拔は 2660 メートルである。年間平均気温は 3.3 度、年間降水量は 461.7 ミリメートルである。雨が降るのは 7 月、8 月、9 月である。

2000 年の人口調査によると、双朋西郷には 642 軒あり、人口は 3800 人、その全部がチベット人である。双朋西郷の面積は 250.97 平方キロメートルであり、そのうち耕地は 10045 ムー (1 ムーは 6.667 アール) で総面積の 2.6% を占める。畑は双朋西郷の西北の海拔 2660 メートルから 3000 メートル間の山地に分布し、主な農産物は、小麦、裸麦、アブラナ、豌豆である。草地は 36.6 万ムーで総面積の 89% を占め、双朋西郷の東南部の海拔 3000 メートル以上の地勢が高くとても寒いところに広がっている。主な家畜の種類は、ヤク、牛、羊、ヤギ、馬、ロバ、ラバなどである。

双朋西郷とは、双朋西上部族 (Zho `ong dpyis l ka) と双朋西村 (Zho `ong dpyis) の二つからなり、双朋西上部族は、曲馬爾村、還主村、闊宰村、娘加村、協知村、沙素瑪村など七つの村からなる。曲馬爾村は双朋西上部族の中の一つの村である。この村の 43 軒からなる小さい村であり、人口は 298 人である (2008 年の人口調査より)。海拔は 3200 メートルであり、郷政府がある双朋西とは 38 キロ離れ、さらに県政府と

州政府がある隆務鎮とは 50 キロ離れた山の上の村である。隆務鎮や双朋西郷から直接行くバスがなく、いつも村人達はバイクやトラックでこの間を往復することになる。



(曲馬爾村の写真)



(双朋西村の写真)

双朋西村は 245 軒からなり、人口は 1450 人 (2006 年の人口調査より) の大きな村である。海拔は 2660 メートルであり、双朋西郷の一番低いところである。県政府がある隆務鎮とは 33 キロも離れているが、この村から甘肅省のチベット地域に通じる重要な道があるので、バス路線もあり、曲馬爾村より交通が少し便利である。

3. 調査内容

(1) 生業

曲馬爾村と双朋西村は大都市と離れ、工場もない。

村人は今もチベットの伝統的な半農半牧生活を送っており、村人の生業は、農業、牧業、出稼ぎが主である。

①農業

曲馬爾村は地勢が高く寒いところに位置し、放牧するのに適しているため、村は半農半牧である。村には総計 935 ムーの畑がある。しかし、この地域の水利はあまりよくなく、地形は平地が少なく山ばかりなので、畑は全部山地にある。農産物は小麦、裸麦、ジャガイモ、アブラナ、豌豆などであった。

通常耕作は毎年旧暦の 2 月中旬（注：新暦では 3 月）から開始する。村の畑は全部山地で、平地がないため、現代の農作業用の機械は使えない。伝統的な方法で耕作を行っている。耕作はヤクと牛の一代雑種であるゾーに鉄製の鋤を引かせて、土をおこしながら播種する。2 月中旬（旧暦）には、先ず小麦や裸麦、アブラナを播く。その後、3 月（旧暦）には、ジャガイモと豌豆が播かれる。

この地域には水利がなく、山地であるため、春に播種して秋に収穫するまで、畑で農作業は何も行っていない。秋の収穫時期は、旧暦の 7 月中旬から 10 月までの 2 か月半にかけてである。この村では、小麦は刈り取った後、庭で 2 か月ほど置く。それは、村の海拔が高いので、小麦があまり熟れないためである。もし、この 2 か月の間に降水量が多ければ、刈り取った小麦が発酵する危険性が高い。小麦が雨で発酵してしまった時は家畜の飼料として利用している、と村人が言っていた。

裸麦は海拔が高くても、よく育つ、裸麦粉でチベットの伝統的な主食であるザンバ (Rtsm p) を作るのに、村人は裸麦を大量に播種している。自家の食料とし、余った部分は売っている。ジャガイモ及びアブラナも食料にしており、ジャガイモは家畜の飼料として作ることもある。

曲馬爾村のサンジェジャ (sngs rgys rngyl) 家には、畑が 30 ムー（1 ムーは 6.667 アール）ある。去年、実際に種まきをしたのは、20 ムーである。そのうち、小麦は 6 ムーに種まきをし、平均 1 ムーで 300 斤（1 斤は 500g）を収穫した。裸麦は 8 ムーに植え、平均 1 ムーで 300 斤を収穫した。ジャガイモは 1 ムーに種まきをし、2000 斤を収穫した（食料以外に家畜の飼料にした）。アブラナは 3 ムーに種まきをし、平均 1 ムーで 170 斤を収穫した。豌豆は 2 ムーに種まきをし、平均 1 ムーで 400 斤を収穫した。

②牧業

チベット高原は、放牧に適しているため、チベット人が昔から遊牧を行ってきた。現在もチベットのほとんどの地域では、牧業は重要な生業として行っている。曲馬爾村と双朋西村のほとんどの村人の重要な生業も牧業である。



（曲馬爾村の家畜の写真）



（ヤクの写真）

曲馬爾村の村人が放牧する草原は、村と約 13 キロ離れている山奥にある。ヤク (G .yg)、ジュウモ ('brim o)、ゾー (Mdzo)、ゾーモ (Mdzo mo)、羊などを家畜として放牧している。ゾー、ゾーモはヤクと牛の一代雑種で、ゾーは牡、ゾーモは牝である。昔、草原は村で共有して、村人は一緒に放牧して来た。20 世紀 90 年代から、村の毎戸の人数によって、草原は各戸に分けられるようになった。この草原の分配は 5 年ごとに再分配される。村人は自分の草原以外には放牧することができない。草原の有限の草を 1 年間の間に、家畜によく食べさせるため、草原は春の草原 (Dpyid s)、夏の草原 (Dbyr s)、秋の草原 (Ston s)、冬の草原 (Dgun s) など、使う季節によって分けられている。

曲馬爾村の村人であるサンジェ (Dgun s) によれば、

彼は旧暦の4月から5月までの約1か月間春の草原で放牧している。5月から7月までの2か月間に夏の草原で放牧し、7月から8月まで1か月間には、秋の草原で放牧している。8月は、村の農産物の収穫は大体終わっているため、約1か月間、村周辺の畑の草を食べさせる。その後、10月から来年の4月まで、冬の草原で放牧している。

農業の繁忙な時期とは、春の播種時期と秋の収穫時期であるが、牧業の繁忙な時期とは、一般的に春の（旧暦）3月や秋の10月、冬の11月、12月である。春の3月には草原の草がまだ生えていない。家畜は餓死する確率が高いため、随時家畜の状態を見て、飼料を配り、草がある草原に移動させる。秋の10月から冬の12月までは、羊の出産時期であり、草原の草もあまりなく、また、とても寒い時期なので、随時羊を見て、出産した子羊と羊は暖かい場所に移し、飼料を食べさせることもある。この時期、場合によっては、1日に10匹の羊が出産することもあるので、2、3人が必要である。昔、夏の5月は羊毛を切るため繁忙な時期であったが、最近では近代的な工具を使い、遊牧民相互で手伝いあうので、1、2日で終わる。

牧業では、男女の仕事は明確に分かれている。男性は放牧することが仕事であり、女性は朝晩に牛乳をしぼり、昼にバター、チーズを作ることが仕事である。昔は、羊の皮で家族のチベット服を作り、牛の毛でチベットのテントを作ること女性の仕事であった。しかし、近年、遊牧民達は住宅に住んでいる。服も町で買っているので、羊毛や羊の皮、牛の毛は商品として売っている。男が放牧するのは、草原にオオカミ、キツネなど家畜に被害を与える動物が多くいるのが原因である。男女それぞれ、繁忙な時期は違う。男性の繁忙期は春の3月や羊の出産時期である秋の10月から12月までである。女性の繁忙期は夏や秋の朝晩に牛乳をしぼり、バター、チーズを作る時期である。

牧業には大量の労働力が必要である。例えば、曲馬爾村のサンジェ家の長男であるペツマ（Pd m）と彼の家族4人は、1年間草原に住んでいる。正月の時、ペツマの弟であるワンデイ（Bn de）が放牧を担当し、ペツマの家族は1週間程度実家の村に帰っている。

曲馬爾村では、労働力の不足や近年出稼ぎ収入が増加したため、放牧をやめた家族も多い。そして、各戸に草原があるので、毎年草原を他の家族に貸して、家畜に草を食べさせれば、年間に約3500元（日本円で4万5千円）の収入がある。

双朋西村は245軒からなる双朋西郷最大の村であるため、村の草原はとても広い。現在でも草原は村で共有し、曲馬爾村のように、草原を各戸ごとに分けていない。労働力の不足や出稼ぎ収入が増加したなど、様々な理由で放牧をやめた家族が多い。牧業をやめた家族と今も村の草原を使って放牧している家族の間では、草原を各戸に分けることを巡って、2002年から紛争がおこり、今も続いている。

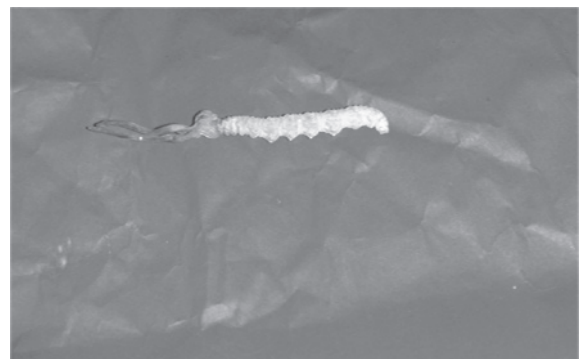
③出稼ぎ

出稼ぎも曲馬爾村と双朋西村の村人の重要な生業となっている。昔は出稼ぎと言えば、建築や道路の修築に行くことであった。しかし、最近のほとんどの村人の出稼ぎは、中国で薬草として有名な冬虫夏草（Dbyr rts dgun `bu）を掘りに行くことになっている。

冬虫夏草は、チベット高原やヒマラヤの海拔3000メートルから4000メートルの高山地帯の草原地中にトンネルを掘って暮らす大型のコウモリガ科の蛾の幼虫に寄生する植物である。中国の行政地域で言えば、チベット自治区、青海省、四川省を中心に、雲南省、甘肅省、貴州省などでよく見られ、夏に採集される。この冬虫夏草は中国では貴重な薬草としてよく知られている。特に、青海省とチベット自治区の冬虫夏草は有名であるため、1斤（500g）の冬虫夏草の値段は4、5万元（日本の円で50万から60万円）である。それ故、高原で生活するチベット人にとって、重要な経済的な収入源になっている。

青海省の冬虫夏草を掘る時期は、地域の海拔によって異なる。一般的には旧暦の4月のはじめから、5月の中旬までである。

曲馬爾村と双朋西村の村人が冬虫夏草を掘りに行くのに二つ方法がある。一つは自主的に行く場合であり、



（冬虫夏草の写真）

もう一つは雇用されて行く場合である。村人は自家の草原に冬虫夏草がないため、青海省の果洛チベット自治州や黄南チベット自治州の河南県を中心に、甘粛省など、他の地域に冬虫夏草を掘りに行っている。冬虫夏草を掘る草原を貸すことによる、一戸の草原の借用費（S rin）は20万から30万元（日本円で250万から380万円）である。それ故、自主的に行く場合は、村人の20人から30人が一つのグループとなって、1人が1万から1万5千円の借用費を分担し、草原に冬虫夏草を掘りに行くのである。このように、自主的に冬虫夏草を掘りに行った場合は、借用した草原で掘った冬虫夏草は全部自分の所有物となる。それで、借用費の1万元を除いた分は収入になるが、万一冬虫夏草が取れなかった場合の不安がある。もし、その年に雨が少なく、冬虫夏草の値段がよければ、1か月半に1人の収入（借用費を除く）は1万5千から2万元になる。例えば、曲馬爾村の村人であるドウジェ（Rdo rje）夫婦は去年自主的に冬虫夏草を掘りに行って、借用費を除いて1人の収入が2万元であった。

雇用されて行く場合とは、30万元の草原借用費を払った金持ちに雇用されて、冬虫夏草を掘りに行くことである。借用費の1万元は村人にとって、大きな数字である。それ故、自己資金を持たない人、或いは初期投資を恐れる人は、草原借用費を払った人に雇用されて掘りに行く。1か月半に5000から7000元の給料と決められ、掘った冬虫夏草は雇用された人の所有物となる。例えば、曲馬爾村の村人であるツエワン（Tshe dbng）は昨年まで、銀行、親戚などから金を借りて、自主的に冬虫夏草を掘りに行った。しかし、去年は銀行や親戚から金を借りなかったため、双朋西村の村人に雇用され、1か月半に7000元の給料と決めて冬虫夏草を掘りに行った。ある時、1日に200本冬虫夏草を見つけ、その時の1本20元の値段で計算すれば、1日に4000元の収入があった。しかし、彼は雇用されているので、その年の冬虫夏草の収入は、1か月半の給料7000元しなかった。とても悔しかったと言っていた。

また、村では、道路を修築や建築現場に行く村人も何人かいた。村人であるリンチエツエラン（Rin chen tshe ring）によれば、去年、彼の体が弱く、また現金もないため、冬虫夏草に行かなかった。回族の金持ちに1日70元の給料で雇用され、郷政府がある双朋西村から曲馬爾村までの道路を修築した。2か月間労働し、4000元程給料があったのに、最後は回族の人が

給料を払わず、逃げてしまったという、悲しい出来事を話してくれた。

社会上、法律的に労働者の安全、給料などが保障されていないため、草原で出稼ぎ労働者の賃金を盗難し、給料を払わず逃げてしまう事件がよく起きている。1979年から中国の中央政府が改革開放の政策を行ったと共に、中国の経済が発展した。特に、2000年から政府は西部大開発という政策によって、チベット高原を開発した。チベットの経済も発展したが、村の出稼ぎ労働者の生活は、社会の最低辺にある。

（2）家族構成

この地域の家庭は日本と違い、伝統的な生活を送り、大量の労働者が必要なので、一般的大家族である。以下で、3つの家族の構成を図3にあげる。

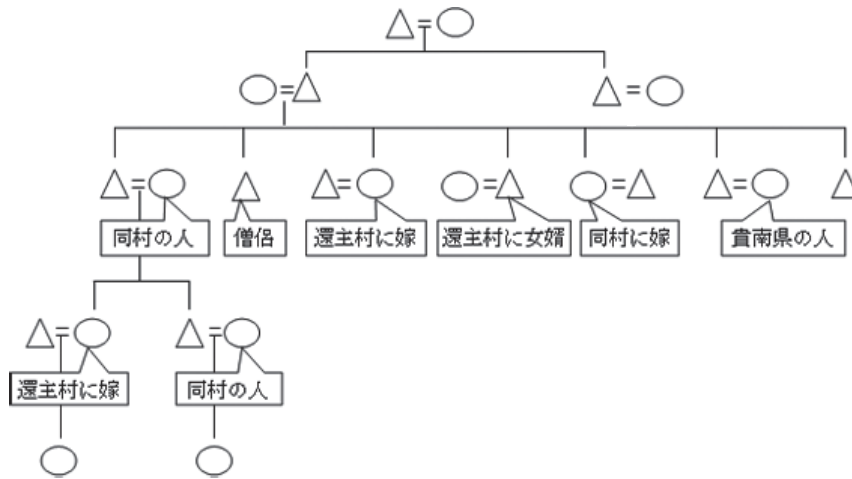
村の家族構成を調査して分かるのは、放牧している家庭は大家族であり、通婚関係は村の中、及び周辺の半農半牧の村と持っていることが挙げられる。それは、農地の人は牧畜の仕事ができなく、或いは放牧の仕事で異郷の女性と知り合いになる機会が少ないことが原因であると思う。公務員は学校、職場で異郷の女性と知り合うチャンスがあり、恋愛や仕事の相手は村人だけに限られてないので、自由な通婚関係を持っている。出稼ぎ中心の家族では、昔は村の中や周辺の村と通婚するのが普通であった。しかし、最近、出稼ぎで異郷の女性と知り合うチャンスが増加したため、通婚範囲も広がっている。また、放牧者の結婚する平均年齢は16歳から17歳までであり、それは労働力の確保が目的となっていることが原因である。

（3）村社会の組織

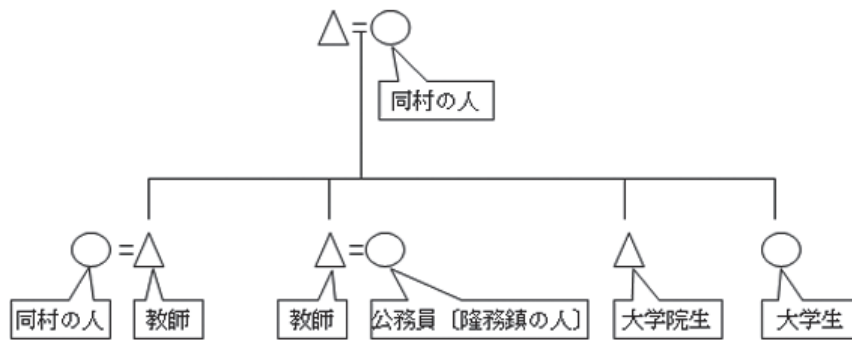
曲馬爾村と双朋西村の村社会には伝統的な組織と近代的な組織がある。伝統的な組織とは部族と氏族であり、近代的な組織とは、村長及び党支部書記である。

①部族（ツォコル Tsho skor）

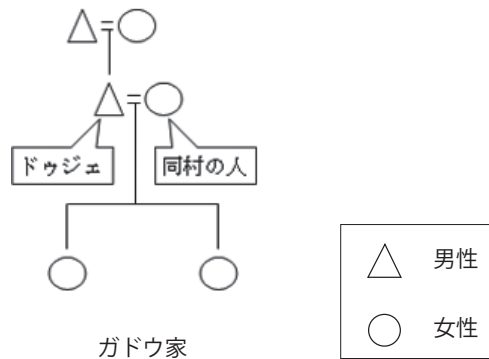
伝統的な組織である部族はいくつかの氏族（ツォコ Tsho b）から成り、一般的に一つの村を指している。例えば、曲馬爾村はブズ（Bu rdzi）氏族、メイジュウ（Med `jigs）氏族、ゲイワ（Sgr b）氏族からなっている。双朋西村はゲンボ（Rgn bo）氏族、ラゲイ（Rsked）氏族、双朋ラマ（Zho `ong）氏族、ゲイワ（Sgr b）



サンジェ家



ドウジェナンジェ家の家族の構成



ガドウ家

図3 曲馬爾村3家族の家族構成

氏族、トウンサ (Mthongs s) 氏族、ニャンワ (Myng b) 氏族からなっている。村の氏族の歴史によれば、村の氏族は同じ祖先からいくつかの氏族に分けられた場合もあり、草原や財産を守るため、いくつかの氏族と聯盟した場合もある。例えば、曲馬爾村のヴズ氏族、メイジュウ氏族、ゲイワ氏族は同じ祖先の3人兄弟から分かれたと言う歴史がある。双朋西村のニャンワ氏族は、昔、今の双朋西村と5、6キロを離れた山奥にあり、隣の村と草原の紛争がよく起きたため、双朋西村の氏

族と聯盟し、双朋西村に移動したと言う。

部落は大部落 (ショウカ Tshog khg) と部落 (ツォコル Tsho shor) の二つに分けられる。大部落は親戚関係があるグループや共通の目的のため、聯盟した部族聯盟である。一般的にいくつかの部落や村からなっている。例えば、双朋西上部落は曲馬爾村など七つの村からなっている。チベットの歴史から見れば、9世紀に吐蕃王朝が潰れた後、長い歴史の過程で、チベットの氏族や部族の間で草原の紛争がよく起きた。そ

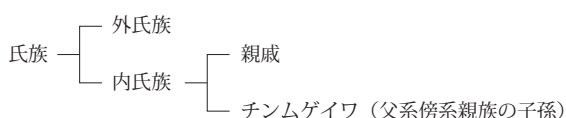
れ故、チベット社会では、氏族や部族聯盟制度が近代まで盛んであった。

村社会では、伝統的な組織である部族と氏族には今でも重要な役割がある。大部族の役割は正月に寺の僧侶に布施をする時や、他の部族及び村と草原などの紛争が起きた時に重要となる。例えば、瓜什則寺は168人の僧侶からなり、瓜什則郷と双朋西郷の寺である。伝統的に瓜什則郷と双朋西郷は五つの大部族に分けられている。双朋西上部族はそのうちの一つである。毎年、正月の10日から15日まで、瓜什則寺では祈祷会を行う。この期間、五つの大部族は毎年輪番で僧侶に布施する義務がある。双朋西上部族の七つの村は5年間に1回、一つの大部族として瓜什則寺の僧侶に布施を行っている。

他の部落（村）と草原の紛争が起きた時の大部族の役割の例として、1990年代後半に、曲馬爾村と隣の県に属するガンザ部落（循化県ガンザ郷）との間に草原の紛争が起き、喧嘩になった。その時、双朋西上部族の他の六つの村から支援をもらい、双朋西上部族の18歳から60歳までの男性全員がガンザ郷に対する示勢行動に参加した。また、2002年双朋西上部族の一つの村である娘加村と隣の双朋西村、瓜什則郷との間で草原の紛争が起きた時、双朋西上部族の他の六つの村が支援してくれた。調査を実施した村の村社会では、今も伝統的な部落聯盟の影響が残っている。

②氏族（ツォワ Tsho b）

氏族は同一の祖先を持つ集団やグループである。しかし、現在、親戚関係に無い人々も同じ氏族である場合もある。チベットの氏族は外氏族（シウツォ Phyi tsho）と内氏族（ナンツォ Nng tsho）という二つに分けられる。外氏族とは自分と同じ氏族であるが、現在は、親戚関係を持ってない家族を指している。内氏族とは親戚とチンムゲイワ（Khyim bgos b）という二つにわけられる。チベットの親戚関係は父系が7世代の間であり、母系は4世代の間である。チンムゲイワとは、同じ家族から分かれた4世代間の兄弟の子孫の家族を指している。



村社会では、葬式や結婚式の時に氏族の役割は重要である。例えば、死者が出た時、故人の家族は経文を唱え、通夜をするだけである。氏族を主とする村人は、寺から活仏や祈祷僧を呼び、僧侶や村人に食材や金の布施をする役割をはたす。結婚式の時にも、内氏族を主として、氏族は食材や結婚式の歌などを準備する重要な役割を持っている。

③近代的な組織

1959年に中国中央政府がチベットの社会を改革したため、チベットの伝統的な村社会では大きな変化が生じた。村には党支部書記、村長を設置し、政府が直接に村を管理しはじめた。双朋西村は党支部書記、村長及び小組織の長からなり、1960年代から70年代にかけて、中国の全国で合作社の政策を行った。その時、双朋西村は七つの小組織に分けられ、今もその小組織が残っている。筆者が実際に見た村の組織は図4のとおりである。



図4 村の行政的組織

党支部書記とは、郷政府が村の共産党員から選んだ最高権力者であり、政府の政策などを伝達する人である。村長は村人が直接選び、村の生産や経済面を管理する人である。村人であれば、誰でも選挙に参加することができる。小組織の長は政府の政策を各戸に伝達したり、村の公共労働を主催する人であり、小組織に所属する人から選ぶ。

1950年代からチベット社会は大変な変化が起きたため、村社会の組織でも権力を握る者が伝統的な部落と氏族の族長（Tsho dpon Ru dpon）から党支部書記、村長などに变化した。しかし、村社会では今も伝統的な組織の役割が重要である。結婚式、葬式、寺への布施など人生の重要な儀礼を行う時、部落と氏族の人々が重要な役割を担っている。

4. まとめ

チベット解放から60年、経済開発開始から30年ほど経過したが、チベットの村社会では伝統的な文化、生業、組織は今日でも強く維持されている。一方で、勤めによる収入が増えて大勢の村人が放牧をやめ、近年では冬虫夏草を掘るなどの出稼ぎに行くようになったと共に、ある程度の外来文化や経済の影響も受けている。村人は1年間に半分以上の時期は村で農業、牧業、宗教儀礼を行っている。出稼ぎの時間は長くても年に約3、4月間である。それ故、今日の双朋西村と曲馬爾村の村人は半開放で半保守であると言える。

半開放の側面は、道路工事などの出稼ぎ収入が増えて、かなりの村人が放牧をやめるようになったこと、近年では冬虫夏草による収入が増えたこと、これにより外部との接触が増加して村人のもの見方考え方が経済的利益を求めものに変化したことである。またもっと便利な生活を求める傾向も顕著になってきた。

半保守の側面は、依然として伝統的農牧業が経済と文化の基礎であり、寺院を中心とした精神生活は依然強く、村社会の紐帯を守る傾向は強く残っている。

5. 今後の展望

1979年以来、中国政府の改革開放の政策は中国の経済発展の転換期になり、中国の経済は急速な発展を遂げた。特に、2000年から中国政府は西部大開発という政策を行い、これがチベット人地域の経済的発展をもたらした。

チベット地域の経済発展はチベットの伝統的な社会や宗教、文化、習慣などに大きな影響を与え、村社会の家族構成、人口、組織、人間関係、日常生活などにも変化を引き起こした。このことは今回の研究経過で認識した。

今後は1979年中国改革開放後現在までの約30年間で、中国の経済発展の影響が青海省チベット族の村社会の組織、人口、家族構成、生業、習慣、人間関係、価値観などにどんな変化を与えたか、また、市場経済の侵入で村人の消費変化、収入変化、進学、就職などを明らかにすると同時に、宗教と村落の伝統組織・行事の変化を重点にし、全体的に村社会の変遷を民族誌的に描き出したいと思っている。

参考文献

- タツラブン「双朋西上部族の歴史」雑誌『青海群衆文劇』掲載論文 2009年春巻
- ペツマウンチェ『双朋西村の歴史』甘肅民族出版社 2007年
- 「黄南チベット自治州概況」編者委員会『青海省黄南チベット自治州概況』民族出版社 2009年
- 同仁県双朋西郷政府「同仁県双朋西郷政府2002年—2010年扶助貧困の計画書」2001